

濱田県政に期待するものは 質問Ⅱ河川改修など要望の好機では 答弁Ⅱ積極的に行っていく



市川 けんじ 議員

令和元年11月24日投開票の高知県知事選挙により、町長も応援に駆けつけていた、濱田県政が誕生した。

濱田知事は災害対策では、南海トラフ地震対策に加え、台風や豪雨災害についても、中小河川の改修を第一に考えるとのことであった。

町内には台風や豪雨時に度々、氾濫により冠水する地域がいくつかあるが、そういった河川の改修や早期完成を要望するには最も良い時期ではないか。

また、台風や豪雨によ

り、砂防えん堤や治山えん堤、小谷からの土砂流出が度々発生している。町道などに流出した土砂は取り除けばその機能は回復するが、発生の基を取り除かなければ、同じことの繰り返しだ。

現地を確認し、対策を検討した上で、関係機関に要望することは急務と考えるが。

池田町長

中小河川、例えば奥田川の整備や浸水区域、土砂流出か所への対策は、町の重要な課題と認識している。

知事は消防庁での経験を生かし、南海トラフ地震対策やインフラ整備への取り組み推進を政策に掲げていることから、この機会を捉え、県への要望を積極的に行っていく。

市川議員

要望は大事な町長の仕事の一つだと考える。

要望方法として、町には吾川郡選出の県会議員が2人いる。同行してもらっても効果が増すのではないか。

池田町長

県会議員の同行は、知事に町の現状を知ってもらうためには有効な方法の一つだと考えている。

それぞれ所属する委員会都合も考慮し、要望の進め方を検討する。



あったか町政とは

市川議員

町長は政治理念の一つに「あったか町政」を掲げ、池田町政が誕生した。

町には、県の補助事業を活用した「住宅改造支援事業」があるが、これは、介護が必要となった方からの要望を受け、早急な対応が望まれる事業だ。

令和元年5月に審査を受け、申請したが、申請書不備などで、8月に交付決定通知。

その後、工事が行われ10月に完成したが、契約と違うものができていた。

10月7日には町と業者も来て、変更確認をし、注文中に2週間、工事は2〜3日で完成予定だったものが、11月末を迎えようとしていても、まだできていない。大変苦労をしているとの声を聞いた。

町中に入って協議をしているのに、なぜ、確認もせず置いているのか。「あったか町政」はどこに。

また、令和元年12月3日に「ミニデイお世話役交流会」が行われているが、議会の合同審査の日と重なり、担当課長の出席はなく、ビデオレターでの挨拶で、非常に冷たく感じたとのことだ。日程は事前に調整すべき。

池田町長

就任以来、町民の生活に寄り添った身近で「あったか町政を目指してきた。

私も直接出向き、工事の進捗状況を確認してきた。しかし、結果として、工事が遅れ、ご不便をおかけしたことになった。

担当課からは、工事業者に対し、指導を行った。今後においては、町民に信頼がおける事業となるよう、周知・徹底を行っていく。

ミニデイお世話役交流会については、大事な会議と認識している。

今後はできる限り出席できるように心がける。都合の付かない場合は誠意ある対応を行っていく。